

Musikelectronic ME25 ME100・RL906 ME803KS 音質試聴テスト



「musikelectronic geithain gmbh」この長い社名をご存じの方もいらっしゃると思う。それは、ドイツ国営放送が採用する業務用パワードモニタースピーカー（業務用のスピーカーは通常パワードモニター）のメーカーだ。しかし、製造メーカーがそれほど大きいわけではなく、また宣伝活動にもあまり積極的でなかったこともあり、日本では最近まであまり知られていなかった。ところが6年ほど前からその音の良さが認められてスタジオ関係を中心にブレイクし、多くのスタジオやエンジニアがこぞって採用した。中でも人気が高いモデルが小型パワードモニターの「RL906」は、2008年にNHKエンタープライズが発売したブルーレイ・ソフト「小澤征爾+ベルリンフィル、悲愴」のミキシングに実際に使用された。このようにミュージックは、その音質が高く評価されプロ業界ですでに絶大な支持が得られている。ミュージック製品の主力は、パワーアンプを内蔵した「アクティブ型（パワードモニター）」であるが、アンプを内蔵しない「パッシブ型」もラインナップしている。オーディオ市場ではアンプの組み合わせによる音の変化が楽しめないという理由で「アクティブ型」は昔からあまり人気がなく、これもコンシューマ市場へ出遅れた一因となっている。しかし、ユニットの再生周波数に合わせた入力信号の帯域分割（高域/低域）をプリアンプ（パワーアンプに入る前）レベルで行える「アクティブ型」スピーカーでは、パッシブ型を大きく超える音質が実現する。なぜならば、マルチWayスピーカーで不可避の「ネットワーク」を持たないからだ。アンプが増幅した大電力ではなくプリアンプレベルの微小信号域で帯域を分割するパワードスピーカーは、音質劣化の原因となる大型のコイルや電解コンデンサーを使わずにすむ。そのため高音質の帯域分割回路が使える。これはパッシブ型スピーカーにはない大きなメリットである。さらにアンプからユニットまでが最短距離で結ばれるパワードスピーカーは、パッシブ型よりもレスポンスが早くエネルギーを伝える。このようにパワードスピーカーは、理論的にも実際にもパッシブ型スピーカーよりも合理的で音が良い。また、高域/低域のアンプにボリュームを設ければ、音質を損なわずにトーンコントロールが可能となる。RL906にはこの機能が搭載されているから、システムや環境、あるいは好みやソースに応じてスピーカーの周波数特性を調整することができる。音質チューニングの幅は狭まるが、手間をかけずに良い音で音楽を聞きたいとお考えなら「パワードスピーカー（アクティブ型スピーカー）」のご購入を考えられて良いと思う。

日本への輸入代理業務は、「(株)バラッド」が行っている。「(株)バラッド」は新しく発足した会社であり、当初はプロユースを中心にセールスを行っていたため、これまでは「コンシューマ市場（一般市場）」へのセールスは手が回らなかったようだ。しかし、近年はハイエンドショウ・東京にもブースを構え、コンシューマ市場へのセールスも活発化してきた。逸品館では、2008年から現在までにパワードモニターの「RL906」を若干数販売したが、商品の特殊性や他に紹介したい商品が山積していたため、HPなどで積極的に紹介をしたことがなかった。しかし、今年（2011年）になって西日本の販売拠点を強化したいと考えるバラッドから、アポイントメントがあり、早速最も売れ筋になるであろうと思われる「ME25」、「ME100」、またコンシューマ市場を意識したデザインが採用されたパワードモニターの「ME803KS」が試聴機として届けられた。そこに逸品館が試聴機として常備するRL906を加えて比較試聴を行うことにした。また2008年に行った「RL906」と「RL904」の試聴レポートも合わせて掲載する。

パッシブ型モニター ME25/ME100



標準の仕上げは「バースアイ・メイプル」が採用されています。どちらモデルも2WayですがME100のみBi-Wireに対応します。バスレフのポートは、前面に設けられています。

	ME25	ME100
方式	同軸型2Way バスレフ	同軸型2Way バスレフ
周波数特性	50Hz~20kHz	50Hz~20kHz
入力感度	85dB	85dB
クロスオーバー周波数	2.5kHz	2.5kHz
インピーダンス	4Ω	4Ω
ドライブユニット	ウーハー:125mm コーン ツイーター:25mm	ウーハー:160mm ツイーター:25mm
入カコネクター	シングルワイヤー	バイワイヤリング対応
推奨パワーアンプ	50W-80W	100W-150W
寸法(mm)	H320 X W205 X D220	H398 X W254 X D345(除グリル)
質量	5.5kg(1本)	12kg(1本)
仕上げ	バースアイ・メイプル	バースアイ・メイプル
メーカー希望小売価格	¥185,000/1本・税別	¥315,000/1本・税別
備考	¥21,500/1本で特注仕上げ可能	¥25,500/1本で特注仕上げ可能

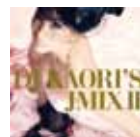
使用機材とソフト



CD/SACD プレーヤー
AIRBOW SA15S2/Master
定価(税別)¥250,000
販売価格はお返事します



CANTATE DOMINO
CD
PRCD 7762



DJ KAORI'S JMXII
CD
UMCK-1272



プリメインアンプ
AIRBOW PM15S2/Master
定価(税別)¥250,000
販売価格はお返事します



COMPACT JAZZ
BILLY HOLIDAY
CD
831 371-2
輸入盤

“ME25” 音質テスト結果



ME25 はすでに2時間以上のウォーミングアップを行っているから準備は万端。最初にカンターテドミノを聞いた。このソフトは再生周波数帯域が広く、また様々な楽器の音が収録されているためスピーカーの音色の再現性が厳しく問われる。それに加えマイクの設置がシンプルのため、スピーカーの音の広がりや歪みのなさもチェックできる。録音がミュージックの本社に比較的近いスエーデンで行われていることもソフトを選ぶ上でのポイントとした。

このソフトを鳴らすのはなかなか難しいのだが、1曲目でまず驚いたのはサイズを遙かに超える低域の再現性だ。さらに金管楽器の切れ味や高域の伸びやかさ、ボーカルの質感やコーラスでの一人一人の声の分離感も素晴らしい。さすがに各国の放送局がこぞってミュージックの小型モニターを採用しただけのことはある。サイズが小さいのに、サイズが小さいスピーカーを聞いている感じが全く感じられない。同じ特徴を持つスピーカーとして Stirling Broadcast LS-3/5a がある。LS-3/5a もサイズの小ささ、密閉型という不利な条件を感じさせずに「聴感上十分な低域」を再現する。ME25 は LS-3/a よりもサイズが大きいこと、設計が新しいことなどが奏功し、LS-3/a よりも低音は遙かに豊かな低音を再現する。またそれに伴って再現される音場空間も格段に大きく、まるで中型~大型スピーカーでカンターテドミノを聞いているかのような「本格的」な鳴り方だ。

楽器の音の出方や消え方、音色の分離感、あらゆる部分が非常に自然だ。試聴に使った AIRBOW 製品のサウンドも同じ方向性を持つから相性も良いのだろう。まるで生演奏をその場で聴いているような「ストレス（違和感）を全く感じさせない高い実在感」で音楽を再現する。ボーカルは柔らかく、温かく、有機的な情感がある。オルガンは時に厳しく、時に優しくコーラスの後方で鳴っている。金管楽器はちりばめられたアクセントのように演奏を引き締め、輝かせる。オーディオ機器が全く介在しないかのような自然な鳴り方が素晴らしい。逸品館が薦めるモニタースピーカーとしては PMC がある。ミュージックは、PMC と同じようにサイズを感じさせない鳴りっぷりと特徴とするが、有機的な感じ情緒的な感じはミュージックが PMC を上回る。

素晴らしい音質で音楽を再現する ME25 だが欠点もある。それは「特性が悪く感じられる」ことだ。始めて RL906 を聞いたとき、このスピーカーは「位相(音のタイミング)」が正しくないと感じた。そこで確認のため PMC のパワードモニター「TB2S-A2」と聞き比べてみたのだが、PMC は見事に位相が揃って聞こえた。それぞれのスピーカーを測定してみると、PMC は周波数特性だけでなく、動的な特性(位相)もびたりと揃っているのに対し、RL906 は周波数特性動的な特性とも PMC に全く及ばず、聴感と全く同じ結果が得られた。しかし、それは測定上の話で実際に音楽を再現してみると「TB2S-A2」が正確無比な「緻密で分析な音」でソフトを鳴らすのに対し、RL906 は「現場の雰囲気」をよりそれらしく伝えてきた。NHK エンタープライズが正確無比な PMC ではなく、現場の雰囲気を正確に再現する RL906 をモニターに選んで、ブルーレイ・ソフト「小澤征爾+ベルリンフィル、悲愴」を録音したことは興味深い。

小型モニター同士の比較では、明らかに PMC よりもミュージックの音が温かく「生」

に近いイメージで音楽を鳴らす、PMC もフラッグシップの BB5 は現場の雰囲気
を非常に色濃く伝えるから、PMC とムジークの違いは能力の差ではなく「スピー
カーの音作りの思想の違い」と取るべきだろう。

この文章を書いている間にカンターテドミノ一枚を完全に聞き終わってしまった。
聞き終わるとの感想も、聞いていたときと全く同じで「自然」。ただそれだけだが、
この「自然な感じ」は今まで私が経験したことがないほど高いレベルであること
を付け加えておきたい。録音再生という時間や場所の違いを超えて「録音現場が
そこに現れた」ような錯覚さえ覚えた。



サイズや価格に近い製品と比べてみたくなったので、スピー
カーを逸品館お薦めの Sonus Faber Minima Vintage に変えて
みた。高域がわずかに刺激的になり、中低域の膨らみが少し
減る。低音のボリューム感も少なくなって、エネルギーバラ
ンスが高域にシフトする。

全体の音のバランスやユニットの繋がりは、ME25 が
Minima Vintage を明らかに上回るが、高域にライトを当てた
よう Minima Vintage 独特の癖がボーカルをクッキリと際立たせ、「歌手一人一
人の口元が見えるよう」なオーディオ的な快楽が得られるようになる。

全体のバランスとしては ME25 のまともさが素晴らしいが、一つ一つの部品（音）
の再現性では Minima Vintage が ME25 を上回るようだ。ME25 はウェルバランス
な音楽モニターで、Minima Vintage は良い意味でオーディオ的な味わいを持つ。性
能的には全く甲乙付けがたいと感じた。



次に「録音が悪いソフト」の代表として、J-POP を聞く。ME25
でカンターテドミノを聞いた感じから予想した以上に ME25 と
このソフトは相性が悪い。高音の切れ味は落ち、中域は曇る。
低音は膨らんで遅く、ぼこぼこ鳴っている。とてもじゃない
けれど、こんな 30 万円を超えるスピーカーから出てくる音だ
とは思えない。良くて Tannoy の 10 万円ペア程度のブックシェ
ル F 型スピーカーの音しか出てこない。

今までいろんなスピーカーを聞き比べてきたが、これほどソフトで評価が変わる
スピーカーも珍しい。ソフトから見れば、スピーカーの評価が下がるし、スピーカー
から見ればソフトの評価が下がる。とにかく、これ以上はないと言うほど ME25
と J-POP との相性は悪い。音が気に入らないのはひとまずとして、冷静にスピー
カーの評価をすると、低域も高域も「過渡特性」が悪いことが聴き取れる。音の
立ち上がりは悪くはないが、立ち下がりが悪く音が止まらない。そのため、次の
音の立ち上がりがマスクングされ音もややと曇ってしまう。原因はエンクロ
ージャーの鳴きが過大なことだ。まるでアマチュアが作った、チューニングの悪い
バスレス型スピーカーのような遅れて膨らんだ低域が出る。ハッキリ言って、私
はこんな音で J-POP を聞きたくない。アンプを変え CD プレーヤーを変えてみたが、
ME25 で聞くカンターテドミノを 100 点とすると J-POP は 20-30 点程度にしか感
じられなかった。



スピーカーを Minima Vintage に変えると遅れて膨らんで
いた低域が改善（それでもまだ少し遅いが）、リズムセク
ションが前に出て弾むようになる。メロディーにテンポ感が出て、
音楽が走り出す。ボーカルも曇りが取れ、表情が豊かに再現
される。

ME25 と比べると見違えるような音で J-POP が聞けたが、や
はり小型スピーカーで電気楽器が多用される POPS を納得で
きる音で聴こうとすると低音が絶対的に不足する。組み合わせるアンプやアクセ
サリーでチューニングが無理して低音をチューニングするよりも、サブウー
ファーを導入するほうが解決が早い。



すでに試聴した二つのソフトから、ME25 の性能をほぼ 100%
把握することができた。音質テストとしては、これ以上違うソ
フトを聞く必要はないのだが、皆様に ME25 の長所をお伝えし
たくて、あえて古いモノラル録音の JAZZ を選び聞いてみた。

予想を超えて、このソフトと ME25 の相性は抜群によい。まる
でレコード + 真空管アンプ + ビンテージスピーカーで往年の
JAZZ を聞いているような、滑らかで心地よい音が出る。しかし、解像度は驚くほ
ど高く、古いソフトを聞いているとは信じられないほど現代的で分離感、透明感
の高い音が見事に両立する。モノラル録音にもかかわらず、まるでステレオ録音
のように大きく音場が展開することにも驚かされる。

ビリーホリデイがそこで歌っているかのような、全くストレスのない音で演奏が
再現される。情感も非常に細やかに表現され、音楽にぐいぐい引きつけられる。
レポートを書く手を止めたくなほど、素晴らしい！オーディオが音楽を再現する装
置だと、素晴らしい音楽の記録を蘇らせる唯一の手段だと確信させてくれる音だ。
ME25 は、今までのソフトを最高の音で鳴らしたスピーカーを完全に圧倒し、
信じられない生々しさで 1955 年録音の JAZZ を鳴らした。この音を聞くためにだ
けでも ME25 の存在価値はある。

ME25 が奏でるビリーホリデイを聞いていると、このスピーカーでアコースティ
ック楽器以降の音楽を聞く必要性が全く感じられなくなる。どんな詭弁を使っても
芸術性という意味で、表現の深さという意味で電気楽器がアコースティック楽器
に敵うことはない。この素晴らしいこのサウンドを、この素晴らしい音楽を「一
人でも多くの人に知って欲しい」。そう心から願わずにいられない。ME25 一本で
すべてをまかなうことはできないかも知れないけれど、ソフトとマッチさせれば
これほど素晴らしい音を出すスピーカーは、絶対に他にないと思えるほどの
音が出た。すごいなあこのスピーカーは！

“ME100” 音質テスト結果



ME100 は約 2 時間のウォーミングアップの後、試聴を開始した。
印象は ME25 とほとんど変わらないが、箱が大きくなったこと
とウーファーのサイズが大きくなったことで「音の濁り」、「空間
の歪み」成分が明らかに増加する。しかし残念ながら、それに引
き替え得られるものはほとんど感じられない。

もちろん低域が豊かになっているので、金管楽器の厚みやボーカ
ルの低音部の量感などは増しているのが聴き取れる。しかし、ME25 で感じられた
圧倒的な自然さ、繋がりの違和感の少なさ、そういうものが損なわれてしまうので、
私はもし価格が逆だとしてもこのソフトを聞くのなら、ME25 を選ぶ。さらにこの
価格帯なら、逸品館お薦めの Vienna Acoustics BEETHOVEN-CONCERT-GRAND
(T3G) に十分手が届きおつりが出ると考えれば、なおさらこのスピーカーには魅
力的に感じられない。

ME25 に比べて音質が優れない理由は、ウーファーが大きくなったことによる
ツイーターとウーファーの音色の繋がりの悪化、ツイーターとウーファーのエッジ
周りに凹凸や余計なプレートが増えたことによる反射の悪影響などが考えられた。



このソフトをかける前のある種の「予感」があった。それは、
ME25 で鳴らせないソフトを ME100 は鳴らせるのではないかと？
ME25 が苦手とした J-POP が上手く鳴るのではないかと？という
予感だ。それは見事に的中する。

ME25 が苦手とした低域の再現性が大きく改善している。確
かにまだ量感には不足を感じるが、速度感や高域との繋がりの良
さ、中域の透明感などは見違えるように良くなった。特に ME25 で問題とな
った低域の遅れ、中域の濁りが大幅に改善し、ME25 ではもともとまる
でスピーカーに毛布をかぶせたような情けなかったサウンドが、見事にクリアで明快な音に
変化する。

とはいえ、価格が半分の PMC FB1i/Signature に比べると低域は足りないし、高
域の解像度・明瞭度、透明感もハッキリと劣っている。その上、ME25 のように
小型スピーカーらしい強い魅力も感じられない。

アンプやケーブルを変えれば見違えるような音になるとも考えられるが、「鳴らし
てやりたい」という衝動は感じなかった。逆に ME25 が、それほど素晴
らしい音を出している。逆さだ。

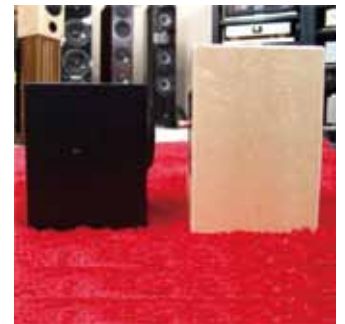


たぶん ME25 を超えられないだろうと思ったが、一応念のため
このディスクも聞いてみた。

結果は想像通り。決して悪くはない音で定位も良いし、音のバ
ランスも悪くない。また、低音の遅れも少なく ME25 よりも性
能は上がっていることが聴き取れる。しかし、ME100 は ME25
で感じたあの「胸にぐっとくる感覚」を持たない。音楽が、「こっ
ちにやってこない」のだ。

ME100 が ME25 を超えられない理由は、エンクロージャーの共鳴（共振）が
ME25 ほどプラスに作用しないことだ。それがわかったので、スタンドへの置き
方を変え、AIRBOW のフローティングボード WFB-0115-1 を使い、改善を試み
ると確かに音は良くなり、エンクロージャーの鳴き（響き）とユニットから出る
音の整合性もかなり改善された。でも ME25 のように「びたり」と嵌る感じは最
後まで得られなかった。価格差を考えても、音質を考慮しても、やはり ME25 が
お薦めだ。その答えは覆らない。

パッシブ型モニター ME25/ME100



RL906 (左) と ME25 (右) の比較。RL906 はかなり小型。

	RL906	RL904	ME803KS
方式	同軸型2Way パスレフ	同軸型2Way パスレフ	同軸型2Way パスレフ
周波数特性	50Hz~20kHz	40Hz~20kHz	25Hz~22kHz
最大音圧	104dB	106dB	122dB
クロスオーバー			
周波数	3kHz	2.5kHz	680Hz, 2kHz
ドライブユニット	ウーハー:130mm ツイーター:25mm	ウーハー:160mm ツイーター:25mm	ウーハー:260mmx2 スコーカー:160mm ツイーター:25mmx3
入カコネクター	XLR	XLR	XLR
内蔵パワーアンプ	低域:80W/4Ω 高域:40W/4Ω	低域:100W/4Ω 高域:100W/4Ω	低域:1000W/4Ω 中域:500W/4Ω 高域:500W/4Ω
寸法(mm)	H255 X W180 X D200	H398 X W254 X D345	H1155 X W366 X D423
質量	5.5kg(1本)	18kg(1本)	71kg(1本)
仕上げ	ブラック	ブラック	パースアイ・メイブル
メーカー希望小売価格	OPEN	OPEN	¥2,450,000/1本・税別

“RL906” 音質テスト結果

ムジックで最も売れている製品、それが RL906 だ。

サイズは ME25 よりも小さいが音質面でアンプを内蔵するメリットは大きく、いったいどれくらいの差があるのか？期待しながら音を出すことにした。

ME25 はパッシブ型なのでプリメインアンプとスピーカーケーブルで繋げばよい。しかし、RL906 はバランス入力しか備えていないパワード型なので、それに合わせた環境を準備した。プレーヤーは、AIRBOW SA15S2/Master のまま変えないが、ボリュームコントローラには「スタジオ」っぽくかなり古いが SONY の放送局用ミキサーを引っ張り出してきて。今となってはこのクラスのミキサーは、5 万円も出せば買えるがこの製品はなんと当時 48 万円！もした。だから、それなりによい部品が使われているし、音質も決して悪くない。色づけのないストレートな音は、良い意味で SONY を感じさせない。フェーダーも質が高いので、下手なリアンプを使うよりも RL906 の「素の音」を引き出してくれると考えた。

さすがに通電直後は「乾いた音」しか出なかった。それは当然でこのミキサーには数年以上火を入れていなかったからだ。オーディオ機器を通電せずに長く置くと、内部の電解コンデンサーが不活性になる。通電を始めると数時間～数十時間かけて電解コンデンサーが活性を取り戻す。

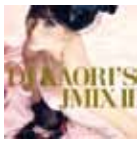
新品購入後のエージングほど時間はかからないが、古い機械を久しぶりに鳴らすときには本来の音質を取り戻すまでにしばらく時間がかかる。2 時間ほど音を出した後、試聴を開始した。



サイズが大きい ME25 よりも、低音が出ている感じがする。中高音は、ME25 が持っていたストレスフリーの自然な広がりを持っている。違うのは、中域と低域の「リニア」な感じだ。スピーカーケーブルが無くネットワークも持たずユニットとアンプを直結させたような、パワード型ならではの「遊びが無く、みっちり」と詰まった音が心地よい。

解像度も高く、コーラスの厚みが全然違って聞こえる。中身がギュ〜と詰まった感じだ。パイプオルガンの力強さもかなり違い、サイズが小さいにもかかわらず大型のスピーカーを聞いているような低音が出る。

全体のバランス、ユニット間の繋がりも ME25 を上回る。箱鳴きや歪み感もハッキリ小さい。しかし、ME25 と SA15S2/Master+PM15S2/Master の組み合わせが持っていた「絶妙な響きの甘さ」が RL906 には無い。明確にモニターとしての完成度が高いが、個人的には少し「お仕事をしている感覚」が強くなってきた。演奏をより情緒豊かに聞かせたのは ME25 だ。演奏をより情報量豊かにダイレクトに聴かせるのが RL906 だ。どちらのスピーカーも素晴らしいと思うが、私が欲しいのは ME25 だ。ME25 が聞かせてくれた、リスニングルームをふわりと満たすあの甘美な響きが耳から離れないからだ。



J-POP は ME25 と全く違う。低音の量感こそ ME100 に譲るが、エンクロージャーの不要な鳴きは感じられず、低音もびたりと止まる。これにサブウーファーを組み合わせたら、POPS や ROCK は完璧に鳴るだろう。

ボーカルは質感が高く表情が豊かで、パーカッションはきちんと立ち上がり不要な響きを残さずに音がきちんと止まって消える。不要な響きや濁りはなく、音は素直で好ましい。高音と低音のリズムのバランス、速度感もきちんと合っている。やはり、モニターはパワードでなければ。この音なら J-POP にも全く不満はない。



このソフトを聞いたときの RL906 の印象は、カンターテドミノをきくそれに近い。

スピーカーが楽器のように響いた ME25 に比べ RL906 は、アンプがスピーカーをキチンと鳴らしている感覚がある。そのため ME25 に比べるとわずかにオーディオ機器の介在が感じられ、電気音が増幅された感じが出てくる。

しかし、絶対的な音質は素晴らしく文句の付けようがない。癖はないし、あるべき音があるべき位置から出てくる。ピリーホリデイの声も「聞き慣れたいい音」で再現される。何の不満も無い、いい音だ。しかし、やはり ME25 の音が恋しくなる。あれは・・・、やはり特別だった。

ただし今回の試聴は局用のミキサーをリアンプにしているため、オーディオ用リアンプを使うより音は「ドライな傾向」が強くなるはずだから、色気のあるリアンプを奢ってやれば RL906 も ME25 にグッと近づくだろう。小型スピーカーで本格的に音楽を楽しみたいとお考えなら、RL906 以上のスピーカーを見つけないのはちょっと難しいだろう。

パワードという形式が気に入らなず、オーディオ的な問題に直面せずに音楽だけを楽しみたいとお考えなら、RL906 はベストパートナーになれることは間違いない。

“ME803KS” 音質テスト結果

SONY のミキサーを繋いで音を出したのだが、RL-906 では気にならなかったハムノイズが発生したこと、高域に曇りを感じたため、CD から SST Ambrosia SE にアンバランスで信号を入力し、Ambrosia からバランスで出力して ME803KS に入力した。音が出た瞬間は SONY のミキサーと大きな違いを感じなかったが、ノイズは完全になくなった。しばらく聞いていると霧が晴れたように中高域の透明

感と繊細さが格段に改善した。それもそのはず、Ambrosia SE はまだエージングが終わっておらず、SONY のミキサーを繋いで音を出したのだが、RL-906 では気にならなかったハムノイズが発生したこと、高域に曇りを感じたため、CD から SST Ambrosia SE にアンバランスで信号を入力し、Ambrosia からバランスで出力して ME803KS に入力した。音が出た瞬間は SONY のミキサーと大きな違いを感じなかったが、ノイズは完全になくなった。しばらく聞いていると霧が晴れたように中高域の透明感と繊細さが格段に改善した。それもそのはず、Ambrosia SE はまだエージングが終わっておらず、しかも通電直後に音を出したからだ。一時間ほど鳴らしていると、中高域の曇りはかなり改善した。



改善したとはいえ、「高域の伸びやかさ」と「曇りのなさ」は、ME25 と RL906 に及ばない。ME25/RL906 のストレスを感じない音の広がり、小型スピーカーならではの音で、中でもムジックは特殊に優れている。

ME803KS の透明感や音の広がり感は一般的な大型スピーカーの水準は大きく超えるが、音源（スピーカーのサイズ）が大きくなることや同軸ユニットの保護グリルが外せない影響か、高域の透明感 RL906 や ME25 ほど顕著には感じられない。これ以上を望むなら、レーザーセッターや Real Sound Apeq の助けが必要になるだろう。

スピーカーの物理的サイズが大きくなり十分な重低音が出せるようになったことで、中域と低域の厚みは全く変わる。コーラスの低い部分、パイプオルガンの空気を揺るがすような重低音がきちんと再現され、原寸大のライブ感が味わえる。軽く味噌を付けたものの ME803KS でも部屋中に音がストレスなく自然に広がり、音源（楽器やボーカル）の位置関係も完璧だ。このあたり、さすがに現場を磨かれた「モニター」の高い精度を感じさせる。

ME25/RL906 と違うのは、「位相が揃って音がまともに聞こえる」ことだ。設計が新しいせいか、特性に乱れが感じられずまるで「PMC」のように正確な音に仕上げられている。「ムジックらしい味わい」が若干薄くなっているが、癖が無く高性能で音色が優しい高性能スピーカーという印象だ。



中高音の切れ味や音色、定位感は自然で優れている。しかし、低音はサブウーファーで持ち上げたように膨らんでいる。高域よりも遅く濁っていて、やや過剰だ。今回接続に使ったケーブルは、BELDEN のマイクケーブルを使った自作品だが、このケーブルの影響もあるかも知れないし、Ambrosia SE のエージングが足りないのかも知れない、設置もカーペットの上に置いている

など最悪の状況に近い。まあ、この音が ME803KS の「最も悪い状態」なのだろう。セッティングに失敗し、うまく出ない低域は別に中高域は自然で滑らかだ。このあたりにムジックがこだわる自社製の同軸ユニットを使った良さを十分に感じとれる。大型スピーカーなのに小型スピーカーのように音の繋がりが良く、滑らかに音が出る。ボーカルはコンパクトに定位し、口が大きくならない。楽器の高音も鋭くコンパクトで、原寸大以上に肥大しない。しかし、入力されたソースを的確に音に変換している感じで、それをよりよく聞かせてくれることはない。プロのためのスピーカー。そういうイメージを持った。



JAZZ は思ったよりもよく鳴る印象だ。

ボーカルはコンパクトにまとまって表現力も十分だし、楽器の音も自然で J-POP で感じたような低音の肥大感も全く感じない。ピアノの音も魅力的だ。

高音（高次倍音）の音色の再現性に優れ、生演奏を聴いているように鮮やかな楽器の音を聞かせてくれる。今回テストした他

のムジック製品同様、アコースティック楽器モニターとしての能力は抜群に高い。この部分では、確実にムジックは PMC を超えるだろう。しかし、電気楽器の再現性は褒められたものではなく、この点では PMC の脚元にも及ばない。

ムジックの製品は「ピンテッジ時代のスピーカー」に近い味わいを持っている。JBL のような「濃さ」もあるし、ALTEC のような「明るさ」も感じられる。ME803KS では小型スピーカーのような定位の良さ、大型スピーカーのエネルギー感、そういう相反する要素が見事にバランスしている。

最高のアマチュアニズムでスピーカーを作るとこんな音になるのだろうか？あるいは、私がプロとアマチュアを誤解しているのだろうか？プロモデルなのに、色濃く「手作り感」を感じる。こういう音を探している、音楽好きなお客様は少なくないと思うが、この製品が現場で通用するのをとても不思議に思う。とにかく Musikelectronic の製品はソースへの対応性に少し疑問を感じさせるが、アコースティック音源は抜群に良い音で鳴らす。世界的に有名な日本のミュージシャン「坂本龍一氏」がコンサート（ライブ）に Musikelectronic を使うことでも、それは間違いない。パラッドから招待された彼のコンサートで使われていた Musikelectronic は、まさに彼の奏でるピアノと見事に同化し、私ですらピアノから出ている音とスピーカーから出ている音を分離して聞き取れなかったほどのものだ。だからといって、私はムジックを AIRBOW の音決めに使わない。ムジックの「癖」が、テスト対象とする AIRBOW 製品の音を美化してしまうからだ。機器を作るならば、スピーカーはもっと厳しい音の製品がよいと私は思う。なぜなら、「最悪」の状態でもいい音を奏でる機器を作れたら、たぶんどんな状況で使っても良い音で音楽が鳴ると思うからだ。ムジックがモニタースピーカーだという事実を、私は最後まで受け入れることができなかったが、それは現場で私が音を決める基準とは違う観点から音が作られていることを示しているのだろう。オーディオマニアの求める音と、エンジニアが作り出したい音には、少し相違があるのかも知れない。この点については、まだまだ勉強が必要なようだ。